

7 千葉市の戦跡めぐり

葭川公園駅



① 平和都市宣言記念像 (京成千葉中央駅東口前)



平成7年(1995年)7月7日、千葉空襲・終戦50周年を記念し「平和都市宣言」のシンボルとなる記念像を空襲の被災地である京成千葉中央駅東口前に設置しました。高さ10メートルのステンレス製の像は、人々が互いに尊重し、信頼し合いながら支え合う姿を表現しています。

「FUTURE SUPPORTERS」
未来を支える人々
(制作者 関正司氏)

② 戦災復興記念碑 (中央公園内)



終戦後、政府の「戦災復興計画基本方針」に基づき、千葉市は都市計画委員会を中心に、戦災復興院、県などと協議を重ねて復興計画を立案、昭和21年(1946年)6月27日に117万坪(386.8ヘクタール)の事業認可を受けました。

この計画により、国鉄千葉駅、京成千葉駅の移転を中心として道路・公園などの整備が行われ、事業は昭和55年(1980年)に完了しました。



千葉公園内

千葉

④ 演習用トンネル



⑤ 架橋演習用橋脚



⑥ 荒木山



戦前の荒木山

⑦ 気球聯隊ダイヤモンド



千葉公園は戦後昭和21年(1946年)6月に戦災復興計画により公園造成が決まり、建設されました。綿打池付近から競輪場一帯が鉄道第一聯隊の演習用作業場であったところから、現在でも架橋演習のため橋脚やトンネルが残されています。

ボート管理事務所先の高台一帯は、満州事変で武勲をたてた鉄道第一聯隊の荒木克業大尉の名をとって「荒木山」と呼ばれています。戦前まで、荒木大尉の銅像が建っていました。



千葉市内とくに轟町・作草部・椿森・弁天地区には、かつて『軍隊の町』といわれるほど、多くの軍事施設が集積していました。今は平和な学園地域や住宅地域となっているこの地域には、往時を偲ばせる戦跡が今も点在しています。モノレールなどで戦跡を訪ね、「戦争の悲惨さ、平和の尊さ」を考えてみましょう。

千葉駅



③ 千葉師範学校女子部跡碑

(千葉駅前大通り・京葉銀行本店前)



千葉師範学校女子部は富士見町にありましたが、昭和20年(1945年)6月10日に空襲を受け、校舎は焼失しました。



千葉師範学校女子部

公園駅

トラス

「陸軍気球聯隊 第二格納庫」の部材を保存・展示しています。昭和9年(1934年)に完成し、昭和20年(1945年)の空襲で焼け残った後長く民間の倉庫として使われましたが、令和2年(2020年)に解体されました。

この鉄骨は第二格納庫で使われた「ダイヤモンドトラス」と呼ばれる立体構造材の一部です。



椿森

⑧ 千葉陸軍病院跡 ((独)国立病院機構 千葉医療センター)



明治41年(1908年)に創設された「千葉衛戍病院」は、昭和11年(1936年)に「千葉陸軍病院」と改称され、傷病兵の治療にあたっていました。現在、同病院は、独立行政法人国立病院機構千葉医療センターとなっています。



鉄道第一聯隊正門

⑨ 鉄道大隊記念碑



椿森公園の北には、明治36年建立と刻まれた「鉄道大隊」の記念碑があり、そのそばには鉄道隊駐屯の跡という小さな石が現存しています。「鉄道大隊」は、明治29年(1896年)東京牛込で創設され、その後、明治41年(1908年)に椿森に転営し、大正7年(1918年)に「鉄道第一聯隊」となりました。また、椿森公園内には、同聯隊の将校集会所の庭の築山跡が残っています。

⑩ 将校集会所庭の築山跡 (椿森公園内)



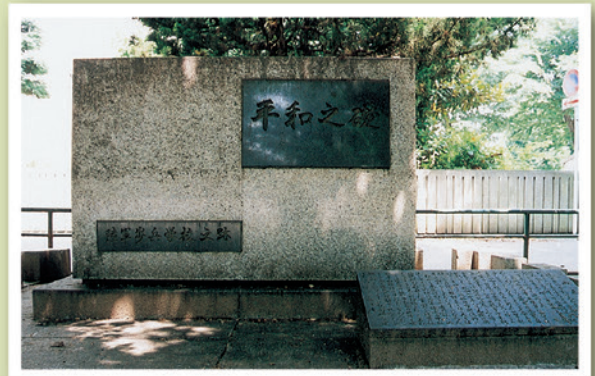


11 旧鉄道第一聯隊材料廠 (千葉経済学園内)



明治41年(1908年)鉄道聯隊の椿森転営に伴い「聯隊材料廠」を建設。その後、組織改正を経て「鉄道第一聯隊材料廠」となり、鉄道工兵の教育、鉄道器材の修理が行われていました。現在、県指定有形文化財として保存されています。

12 陸軍歩兵学校跡 (作草部公園内)



陸軍歩兵学校正門

大正元年(1912年)歩兵の戦闘法を研究し、これを全軍に普及させる目的で「陸軍歩兵学校」が設立されました。モノレール天台駅付近の作草部公園のあたり一帯は、かつて陸軍歩兵学校のあったところです。公園内に「陸軍歩兵学校跡・平和之礎」の石碑があります。

